

第4回静岡市持続可能な森づくり研究会

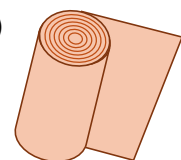
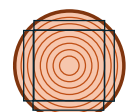
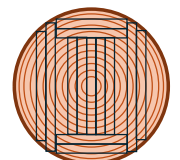
静岡市

令和7年8月22日

「木材の利用拡大に向けた方策」

1. 木材の部位ごとの主な用途
2. 木材の加工の流れ
3. 静岡市周辺の木材の流通
4. 静岡市の木材流通全体の現状・問題
5. 川上の問題：木はあるのに伐れていない
6. 川上～川中の問題：今後の需要の変化に対応できるか
7. 川中～川下の問題：欲しいのに手に入らない
8. 川下の問題：木材利用と森林を守ることがつながっていない

1. 木材の部位ごとの主な用途

例:70年生 20m ヒノキ	一般的な用途	条件等	静岡市の需給の傾向
末玉	・チップ (MDF、パルプ、燃料) ・普及啓発雑貨等 	全木集材でない場合は、林内に捨て置きにするケースも多い	・2025年に袋井市で大規模なバイオマス発電施設が稼働を始め、チップの需要が大幅に増加している。
四番玉 三番玉	・合板(桂むき) ・集成材(スライス) 	直径16～50cm 4m B材(A材も可) →合板	・2015年に富士市で大規模な合板工場が稼働を始め、B材の需要が大幅に増加している。 ・集成材は生産が少なく、ほぼ県外から調達している。
二番玉	・構造材 ・羽柄材 	直径15～25cm前後 3m A材→柱 4m A材→土台	・オクシズヒノキ材は通直で加工しやすく、構造材として定評がある。 ・最も高値で売れる部位であり、ここが売れる見込みがないと伐採・搬出が進まないと考えられる。 ・市内では、県外産の安価な構造材も多く使用されている。 ・径が大きいものは製材できないため輸出することがある。
一番玉	・構造材 ・羽柄材 ・造作材 		
元玉	・家具用材	スギ・ヒノキは狂いやすいので家具等には使いづらい	・チップに利用されることが多い。

※A材:通直 B材:やや曲がり・小径 C材:曲がり・枝条(明確な定義や基準は無い)

2. 木材の加工の流れ

丸太

市内22生産者 約4.3万m³/年
→県森連 約3万m³/年※



- ・県森連静岡事業所では、大井川～富士川エリアの木材を扱う。
- ・市売と随意契約の割合は、3:7程度。
- ・顧客のニーズに合った材を提供し、山元になるべく多くの利益を還元する努力がなされている。
- ・需要の動向を山元に知らせる役割も担う。

数値根拠

※2025年聞き取りによる概数

※2024年度静岡県木材動態調査に基づき、市が集計

製材

市内19箇所 県内産素材約2.2万
→製品1.3万m³/年※



合板

県内約8万m³→約360万枚/年(NODA)※



写真:林野庁HP

チップ

市内15箇所 約4万生t/年※
(製材所等含む)



写真:林野庁HP

プレカット

市内6箇所 製品約1万m³/年
→約2万坪/年※



つきいた 突板



写真:しずおか特産品解体新書

パルプ

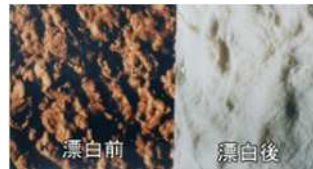


写真:静岡県総合教育センターHP

住宅

市内木造建築物着工数約2,500棟/年
うち市産材使用約300棟/年(H29-31)
静岡市住生活基本計画

家具

静岡県家具・装備品出荷額877億円
(全国5位)
うち市内180億円(R3)

第2期静岡市地域基本計画

パルプ、紙、紙加工品

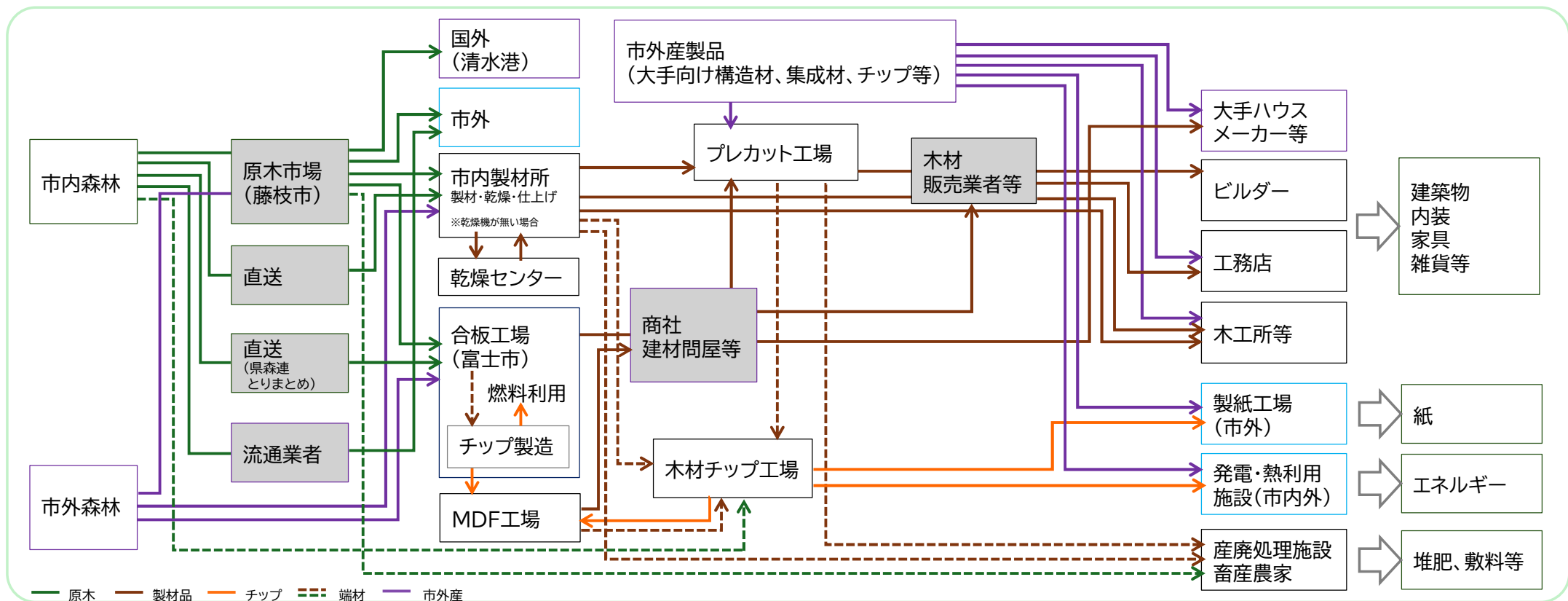
静岡県出荷額
9,086億円(全国1位、シェア11%、R4)
静岡県の産業データブック

バイオマス発電

市内3箇所(牧ヶ谷230kW、田代180kW、高山100kW)
袋井市7,100kW

全国木質バイオマス発電所一覧地図ほか

3. 静岡市周辺の木材の流通



聞き取りにもとづくおおまかな現状

- ・県外・国外へ流通するオクシズ材もあるが、全体的に、市内・県内ではオクシズ材の供給が不足している。
- ・オクシズ材の製材品の需要はあるが、市内工場での生産が追いついていない。
- ・オクシズ材は構造材としての評価が高いが、チップや合板用の需要も多く、B材や末玉、元玉も比較的高く販売できている。
- ・安価な柱・土台材、横架材用の集成材、チップ等が県外・国外から多く持ち込まれている。
- ・市場を通すことでより適切な用途に高値で販売できしており、安定供給に向けた信頼関係構築への努力がなされている。

4. 静岡市の木材流通全体の問題

問題(困りごと)



対応策(案)

- ・関係者間の信頼関係を醸成する。
- ・木材流通の川上から川下まで、必要な情報が見える化し、関係者で共有できるようにする。

川上(森林資源)

- ・どのような地形に
- ・どのような木材が
- ・どのような状態で
- ・どれだけの量あるか

川中

- ・どこから
- ・いつ
- ・どのような木材を
- ・どれだけのコストで
- ・どれだけ出すか

川下

- ・どこで
- ・いつ
- ・どのような木材を
- ・どれくらいの価格で
- ・どれだけ必要か



5. 川上の問題:木はあるのに伐れていない

現状・問題

森林資源の情報が不足している

・大まかな木材蓄積量は把握できているが、細かい情報が不十分
例:森林簿と地番のリンクが困難。保安林情報、所有者情報等もリンクしていない。

森林施業の労働力が不足している

・主伐期を超えた針葉樹林は38,174haあるが、現在の労働力で循環可能な面積は8,802haのみ。
・1月中旬～3月は伐採に適した時期だが、補助金がいづらいため伐採が進みにくい。
・2～3月は伐採に適した時期だが、植栽に適した時期でもある。

伐採木が林道から遠い

・主伐期を超えた針葉樹林は38,174haあるが、林道から100m以内の森林は4,642haのみ。

生産現場が市場から遠い

・山が急峻で奥深く、市場への素材運搬に時間がかかる。
各エリアから市場までの運搬(片道)
井川:4t車60分+10t車150分、梅ヶ島・大河内:7t車90分、清沢・大川:4t車40分

生産量を増やしても利益が増えない

・市内では需要が供給を上回っている状態だが、木材の搬出、再造林を促進するほどの儲けが得られない。

対応策(案)

・関係者で連携した情報システムの改善

・担い手育成
・一時的な労働力受入の促進支援の検討
・県外や国外からの労働力受け入れと、経験不足を補う高性能機械導入の検討
・分業の検討

・架線集材の促進支援の検討

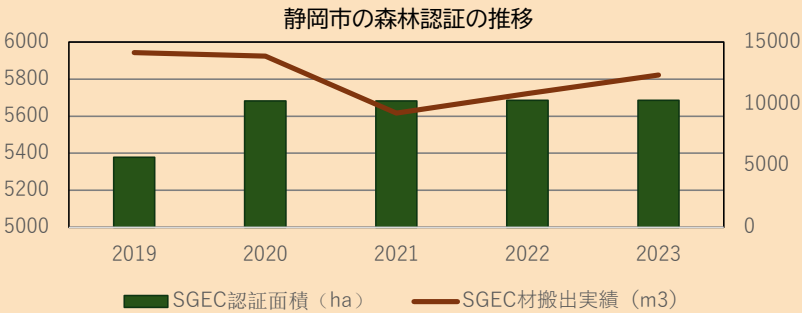
・木材搬出の促進支援の検討

・オクシズ材のブランド化で価格を上げる
・歩留まりを上げる
・植栽～伐採～製材全てのコストを下げる

6. 川上～川中の問題:今後の需要の変化に対応できるか

現状・問題

認証材 今後需要が増える？



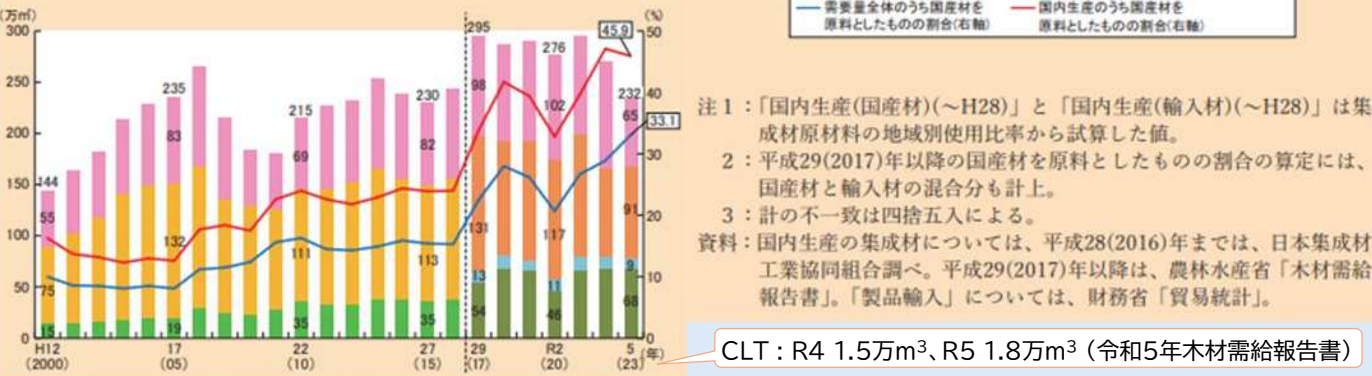
・市内の全素材生産量のうち認証材が占める割合は、25%前後と考えられ、全国平均の10%よりかなり高くなっている。
・2025年に開始した県の補助事業により、認証材の需要が増加し、供給が不足している。

対応策(案)

- ・オクシズ材と合わせて、認証材についても普及啓発する。
- ・小規模所有者の森林の経営集約による認証を検討する。

大規模木造建築物に使う集成材やCLT 今後需要が増える？

資料Ⅲ-41 集成材の供給量の推移



令和6年度森林・林業白書より

- ・歩留まりの良いエンジニアドウッド製造のできる工場の設置を検討する。
- ・県内で生産されていない横架材用集成材を生産できる工場の設置を検討する。
- ・『森の国・木の街』プロジェクトの今後の展開に期待。

7. 川中～川下の問題:欲しいのに手に入らない

現状・問題

需要に対して
供給が少ない

- ・合板工場へ協定通りの材が納品されていない。
- ・オクシズ材構造材を確保するためには、時間と労力が必要。

オクシズ材の
入手ルートが
限られている

- ・住宅新築時に、構造材の産地を自由に選べないことが、消費者にあまり知られていない。
- ・非木造住宅でのオクシズ材内装利用のハードルが高い。
- ・BtoCのオクシズ材製品が少なく、一般市民がオクシズ材製品を入手する機会が少ない。

場所が無くて
在庫を持ってない

- ・原木を保管する土場や製品を保管する倉庫が全体的に不足しており、安定した工場の稼働や、製品の販売が難しい。

加工作業の労働力が
不足している

- ・加工において、機械の作業量や在庫スペースのキャパシティよりも、人手不足がボトルネックになりつつある。

横架材が
生産されていない

- ・住宅の横架材としては、主にベイマツ集成材が使用されている。
- ・オクシズ材に限らず、県産材、国産材を使った横架材の生産がまだ少ない。

オクシズ材が高い

- ・安価な県外産材と比較され、補助無しでは選ばれづらい。
- ・柱材、土台材としての評価が高く、丸太価格も比較的高いが、搬出して黒字になるほどではない。

対応策(案)

- ・供給不足の状況を関係者で共有する。

- ・オクシズ材を使用できる工務店、オクシズ材製品の販売店の周知方法を検討する。

- ・川上から川下までの状況を共有し、在庫が無くても安定した流通を確保する。
(新規に土地を確保するのは非現実的)

- ・担い手確保に必要な対策を検討する。

- ・横架材用集成材を製造できる工場の設置を検討する。

- ・オクシズ材活用促進事業費補助金により活用を促す。

8. 川下の問題:木材生産と森林を守ることがつながっていない

現状・問題

適正な森林伐採は環境破壊ではないこと、森林(特に人工林)の環境維持には人の手による管理が必要なこと、街の生活は森林の恩恵を受けていること等、普及啓発に取り組んでいるが、まだまだ多くの市民に知られていない。

- ・公共施設での、市産木材を活用した、森林・木材に関する展示の実施



エムアイ(M:I)井川



高山市民の森



みほしるべ

- ・木材利用を促す事業の実施



オクシズ森林の市

- ・施業者と住宅施主の交流



森林体験ツアー(アトリエサクラ)

対応策(案)

- ・御意見をお願いします！

研究会スケジュール案

4月の研究会資料に掲載したスケジュール案から変更している部分があります。

	4月28日【第1回】	5月28日【第2回】	6月30日【第3回】	7月30日【第4回】	8月	9月9日【第5回】@水道庁舎
テーマ	研究会の趣旨と方向性の共有	循環林の管理方針	環境林の管理方針	木材利用拡大に向けた方策		これまでの議論の整理と広葉樹林管理
内 容	・計画の策定目的と研究会の役割スケジュール ・市内森林の地形条件に因る問題 ・市内林業の木材流通に係る問題 ・市内森林の所有状況に因る問題 ・循環林と環境林へのゾーニングの基本的な考え方と今後の方向性	・並材大量生産による立木価格の低下 ・林業従事者の減少 ・主伐期を超えた針葉樹人工林 ・循環林のあるべき姿	・環境林の方向性 ・森林が公益的機能を発揮するしくみ ・静岡市の森林基盤の状況 ・静岡市の森林植生の状況 ・災害に強い森林 ・災害に強い環境林へ移行する施策イメージ ・環境林にゾーニングするまで ・新しい森林カーボンクレジットの創出について	・市産材の主な用途 ・市内の木材の流通 ・木材流通の現状と問題 ※8/22へ延期	お休み	・これまでの議論の整理 ・広葉樹林管理、育成複層林管理について ・森林計画に反映すべき具体的な内容の確認 ・提言まとめ
スピーチ 話題提供		・速水委員 ・静岡市林業研究会 山田氏	・相馬委員 ・静岡経営コンサルティング 堀氏	・アトリエサクラ 湯浅氏 ・NODA 原木部 宇佐美氏		・近畿大学 正木教授 ・岐阜県森林アカデミー 横井特任教授

	10月7日@歴史博物館	11月6日@歴史博物館	12月9日@水道庁舎	1月13or14or15日	2月9or10日@市役所新館9階	3月9or10日
テーマ	【第6回:計画案の検証】	【第7回:林業事業体の育成】	【第8回:市民への啓発】	【第9回:新規事業のフォローアップ】	【第10回:市民意見等の確認】	【第11回:研究会の方向性の共有】
内 容	・実施体制、関係者の役割整理 ・進捗管理と評価方法(PDCAサイクル、OODAループ、順応的管理) ・課題、リスクとその対策 ・次のステップに向けた検討(追加調査の必要性など)	・課題の要因分析 ・解決に向けた視点の整理(人材の確保・育成、技術継承、経営支援、市場の整備など) ・具体的な対策の検討(試験的施策の機会、施策を学ぶ場の提供など)	・森林について学ぶ機会の創出 ・市民・企業の参画促進(興味・関心の向上、参加しやすい仕組みなど) ・具体的な取り組みの検討(広報・教育活動の強化、参加機会の提供など)	・森林カーボンクレジット創出事業について ・プラットフォーム構築事業について ・次のステップに向けた検討(追加調査の必要性、事業者の参画促進など)	・パブコメの実施結果の確認 ・新たな課題の抽出 ・森林計画に反映すべき具体的な内容の確認	・森林経営、それを取り巻く環境の変化の共有(国内外の動きなど) ・今後のスケジュール・進め方の合意
ゲスト スピーカー		・静岡県立農林環境専門職大学 鵜飼准教授				

※1月以降の日程・会場については、会場確保でき次第メールにてお知らせします。
(市役所本庁舎内で確保できない場合は、水道庁舎または静岡市歴史博物館会議室での開催を予定しています)